

コロナと同時流行、検査なしでインフル診断も 医療関係者「乱暴だ」

2022年10月13日 毎日新聞

政府は13日、今冬に見込まれる新型コロナウイルスの「第8波」と季節性インフルエンザの同時流行に備えた対応策を発表した。最悪の場合で、両方の患者の合計が1日75万人に上ると想定した。重症化リスクの高い人を確実に病院につなぐため、リスクの低い人は症状が軽ければ「すぐ受診」は避けてもらいたい考えだ。過剰な受診抑制を招かないための情報発信や、きちんと診断できるのかなど、課題も指摘されている。



新型コロナ・インフル同時流行対策タスクフォースの初会合で発言する岸田文雄首相（右）。左は加藤勝信厚生労働相＝首相官邸で2022年10月13日午後0時35分、竹内幹撮影

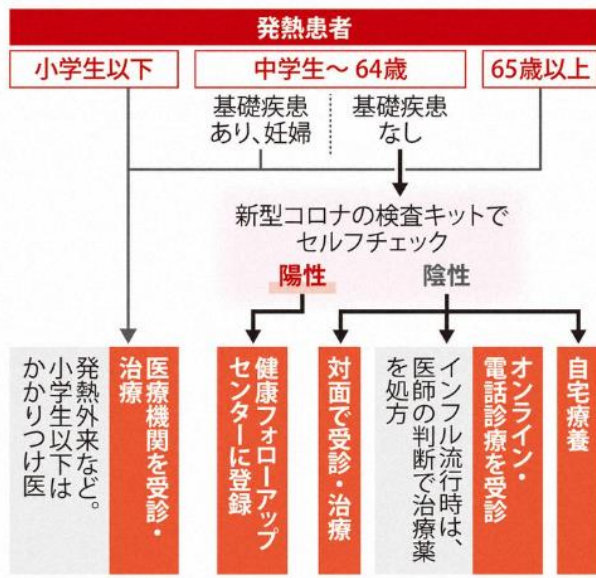
感染対策の浸透もあって、この2年間はインフルは流行しなかった。だが今年、南半球のオーストラリアで先に感染が拡大し、北半球に流行が循環する可能性がある。岸田文雄首相は13日、首相官邸で医療や経済団体の代表らに対策を示して協力を訴えた。

発熱患者が1日75万人に上るとい根拠はこうだ。今夏の新型コロナの第7波では1日最大26万人を超える感染者が出た。最も悪かった沖縄県の感染状況を踏まえ、今冬の新型コロナ患者は1日45万人を想定。インフルは直近5年で最多の1日30万人の患者が出ることを想定する。社会経済活動との両立を目指し、ウイルスに大きな変異がない限り、緊急事態宣言などの行動制限は見送る構えだ。

た。

発熱患者が1日75万人に上るとい根拠はこうだ。今夏の新型コロナの第7波では1日最大26万人を超える感染者が出た。最も悪かった沖縄県の感染状況を踏まえ、今冬の新型コロナ患者は1日45万人を想定。インフルは直近5年で最多の1日30万人の患者が出ることを想定する。社会経済活動との両立を目指し、ウイルスに大きな変異がない限り、緊急事態宣言などの行動制限は見送る構えだ。

同時流行で政府が呼び掛ける受診の流れ(イメージ)



対策は、重症化リスクの高い人については受診を促すことが柱になる。対象者は、65歳以上の高齢者▽64歳以下で基礎疾患のある人▽妊婦▽インフルに感染した場合、急性脳症などの懸念がある小学生以下の子ども——としている。

一方で、リスクの低い患者には、症状が重い場合を除き、「すぐ受診」は避けてもらい、新型コロナのキットを使った自宅での抗原検査を促す。インフル用のキットは市販されていないが、新型コロナ用キットは薬局やインターネットで買える。

コロナ陰性で受診を希望する場合は、オンライン・電話診療、かかりつけ医の受診

のいずれも可能とする。オンライン診療などでは検査なしでもインフルだとの診断ができるとし、タミフルなどの治療薬を届ける体制を整える。

受診抑制で重症化する人が出ることは避けなければならないと、加藤勝信厚労相は13日の記者会見で「体調が思わしくないということであれば、発熱外来などをしっかり受診してほしい」と強調した。

体制面では、オンライン診療を実施している医療機関がいまだに少ないことが課題だ。厚労省は新型コロナの拡大後、オンラインや電話診療の拡充を促してきたが、対応できる医療機関数は全体の2割弱の約1万7000止まり（昨年12月末時点）。都道府県によってばらつきも大きく、京都府や沖縄県などは1割に満たない。

政府は検査キットの確保も急いできた。今年夏の第7波では一時、薬局で買えない事態が起きた。自己検査用を含め約2億4000万回分を確保したといい、加藤氏は「十分な量は確保できている」と述べた。必要なときにどこでも購入できる流通の仕組みが必須となる。その上で、政府は、体調悪化に備えて事前に各家庭で検査キットや解熱鎮痛剤を確保しておくよう促す方針だ。

識者「オンラインだけでは診断できない」医療関係者からは混乱を危惧する声も上がっている。



熱外来で検体を採取するためのスペース＝菊地医院提供

「コロナが陰性だからインフルエンザだというのは乱暴だ」。発熱外来で患者を受け入れている菊地医院（埼玉県蕨市）の森田幹太院長は話す。たとえば、ウイルス量が増えていない時期に検査をしても正しい結果が出ない可能性がある。森田氏は

「発熱患者にはRSウイルスなど、他の感染症も考えられる。似た症状もあり、オンラインだけで診断はできない」と指摘する。

有明こどもクリニック豊洲院（東京都江東区）の村上典子院長も「タミフルなどは副作用の説明も重要になる。10代の子どもの場合、処方慎重を期すべきだ」と述べた。

インフルエンザに詳しい小児科医の菅谷憲夫・慶応大客員教授は「インフルエンザが流行すれば1シーズンに数百万～1000万人が感染し、患者数はコロナどころではない」と懸念。「ハイリスクでない人でも、インフルエンザで重症化したり、亡くなったりすることはある。『症状が重いと感じたら、全員がすぐに発熱外来に行っている』と強調しなければ、現場は混乱する」と指摘する。【横田愛、菊池陽南子、寺町六花、小鍛冶孝志】